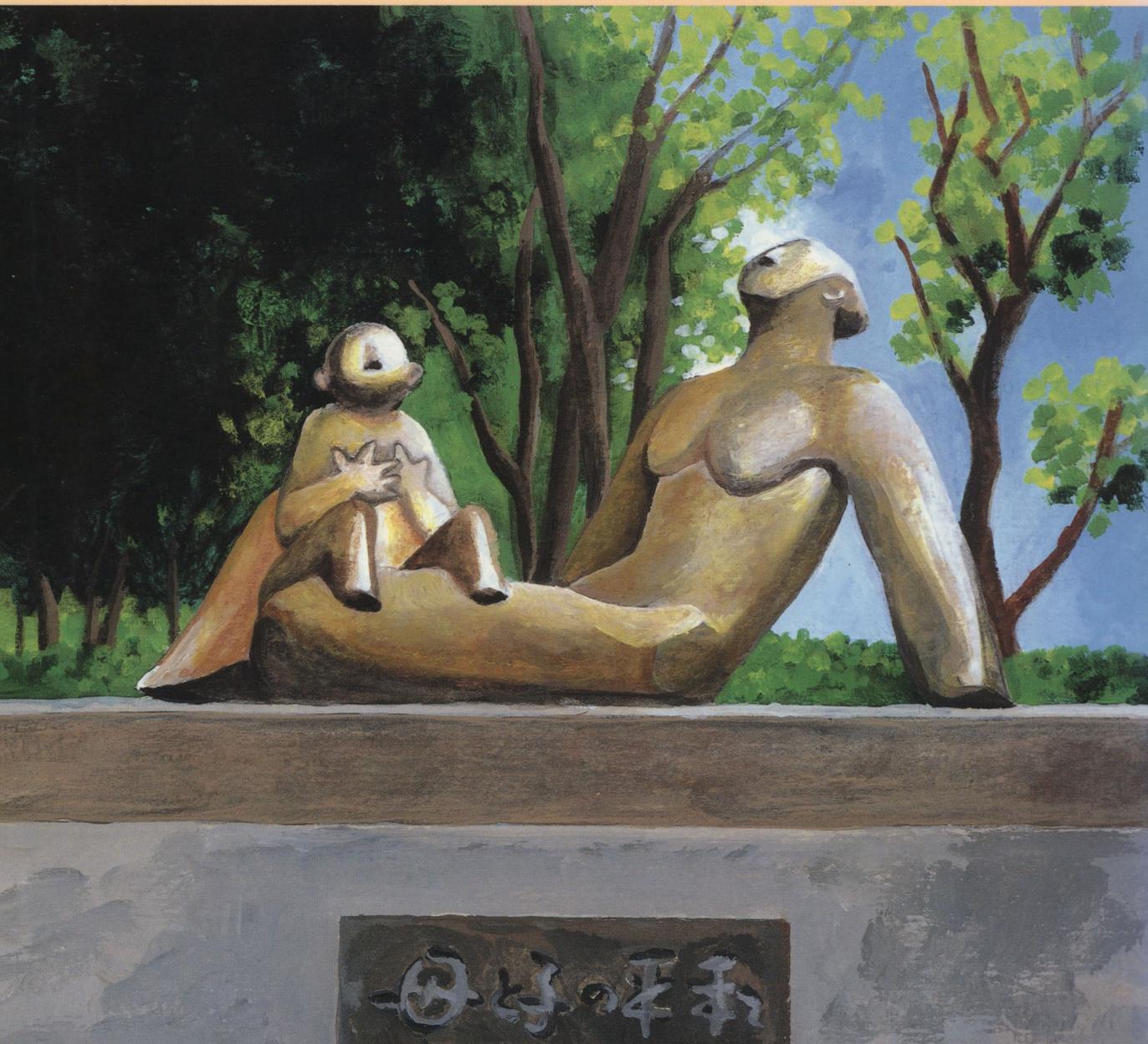


平和への祈りを次代へ

中野区民戦争体験記録集



中野区

平和への祈りを次代へ

中野区民戦争体験記録集

憲法擁護・非核都市の宣言

まちには こどもの笑顔がある
ひろばには 若者の歌がある
ここには 私たちのくらしがある

海を越えた かなたにも
同じ人間の くらしがある

いま 地球をおおう 核兵器は
あらゆる いのちの営みを
この しあわせを 奪い去る

私たちの憲法は
くらしを守り 自由を守り
恒久の平和を誓う

私たちは この憲法を大切にし
世界中の人びとと 手をつなぎ
核をもつ すべての国に
核兵器をすてよ と 訴える

この区民の声を
憲法擁護・非核都市 中野区の
宣言とする

昭和57年 8月15日

中 野 区

中野区民戦争体験記録集の発刊によせて

中野区長 神山好市

中野区は、昭和五七年（一九八二年）八月に「憲法擁護・非核都市の宣言」を定め、核兵器の廃絶を広く訴えてきました。また平成二年（一九九〇年）四月には「中野区における平和行政の基本に関する条例」を制定し、区民の平和に対する願いを受けて事業を展開しています。

幸い、冷戦構造の終結を機に世界の大きな流れは対立から協調へと向かい、軍縮についても、米ロ両国が核兵器の削減交渉で前進的な合意に達するなど、明るいきざしが見えてきました。しかし、地域紛争が世界各地で今なお頻発するなど、幾多の貴重な生命が毎日のように奪われているのも現実です。

一方国内を見ると、戦争を知らない世代が半数以上を占めるようになり、戦争は遠い過去の出来事として忘れ去られようとしています。このような時、かつて日本が体験した戦争を思い返し、その悲惨さ、愚かさを二世紀を担う世代に伝えていくことは、極めて大切なことであり、世界大戦の尊い犠牲の上に築き上げられた現在の「平和」を享受している我々の責務であるといえましょう。

このたび、戦争体験記録集を刊行するにあたり、区民の皆さんに投稿を呼びかけたところ、たくさんの方々から作品をお寄せいただきました。その内容は様々でしたが、戦争のもたらした数々の惨禍について悲しみをこめて語り、二度と戦争を起さずにはいけないと熱く訴えている点は全てに共通しています。区としては、こうした区民の熱意をしっかりと受けとめ、これからもたゆむことなく平和行政の推進にあたっていかなばと意を新たにしております。

この戦争体験記録集が多くの人々に読み継がれ、戦争のない平和な社会の実現に寄与することを願うとともに、ご投稿いただいた方々のご協力にここから感謝申し上げます。

凡例

本書に収録した体験記は、いずれも原文を尊重したが、編集の都合上、次のような補正をした。

- ① 漢字は、原則として常用漢字を用いたが、固有名詞・戦争用語などについては、常用漢字表にない漢字も用いた。かなづかい・送りがなについては、できるだけ現代かなづかいに改めた。
- ② 明らかな誤字・脱字・当て字は訂正し、句読点のないものには、これをほどこした。
- ③ 段落のないもの、あるいは段落の極端に少ないものについては、原文を尊重しながら段落を設けた。
- ④ それぞれの体験記には表題をつけ、氏名・町名を掲げた。なお、表題を指定してある場合は、これに従った。
- ⑤ 枚数超過・内容重複などの場合は、原文の一部を削除したものもある。
- ⑥ 記述については、原文尊重を原則としたため、当時使用されていた用語で不適切と思われる言葉についても、あえて原文のまま掲載したものもある。

目次

憲法擁護・非核都市の宣言

中野区民戦争体験記録集の発刊によせて

凡例

従軍体験

私の戦争体験(談).....	平野佐吉	10
第二次世界大戦記.....	黒澤袈裟人	13
十七歳の従軍体験.....	伊井春夫	17
青春時代のすべてをさらした「地獄の戦場」から帰還して.....	元山俊美	20
国境越え忘れぬ人―今、何処に、あの戦場の中国兵たち―.....	元山俊美	24
ライマトルヒル(五一八五高地)の戦い.....	山田富雄	28
私の戦争体験.....	大澤貢	32
終戦後の玉碎.....	矢島進一	36
転船命令.....	清水静夫	41
中野の戦争体験.....	佐藤一雄	45
現地で終戦をむかえて.....	青柳卯之助	46
我が中国戦線記.....	江橋榮	49
中国戦線の思い出.....	原健治	53

伊十六(イ16)潜水艦乗員で特別攻撃隊作戦に参加して	印南春治	56
遙かなり南冥の天国と地獄	井出筆市	61
海軍戦争体験記録	岡本民雄	65
おじいちゃんの参加した戦争	北村正平	67
命かけた二つの祖国	村山悠基雄	70
昔を偲んで	伏見弘	75
現地人の反乱(パンデラ事件)	加藤實	77
私の体験記(十日戦争)	福原次郎	82
本土防衛従軍記	高見沢昇	86

銃後の生活体験

命瀬戸際のお茶の湯	榎島富代	90
学童疎開 思い出の記	山上彩子	92
戦火をくぐった写真帳から	井出和夫	98
戦時下の学校生活	手塚公夫	101
病みし青春	山田崑久枝	106
戦争体験記録	赤羽勝子	108
戦争の犠牲	小高睦	110
日中戦争の頃	八並瑞枝子	112
戦中派少女	鈴木理子	116

戦時中の国民学校に勤務して……………	倉岡キヤウ	120
私の戦争体験記―日米開戦から日本敗戦まで―……………	小島辰雄	123
歌に思う……………	奥村きみ子	127
戦争体験……………	深沢久男	129
戦争中 昭和二〇年のことを……………	星野千代子	131
私の疎開戦争記……………	熊谷富美恵	135
第二次世界大戦体験記……………	細井晶子	139
初恋のこと……………	長嶋安男	141
孫への手紙―私の戦争体験―……………	斉藤洋子	143
私の戦争体験……………	新井チカ	146
思い出すこと……………	寺谷美喜子	148
戦争中の中学生生活……………	小宮幸雄	150

空 襲

平和の時代がきた……………	澁谷榮一	156
空襲体験記……………	中村千代松	162
通勤列車への襲撃……………	中村千代松	166
東京大空襲と戦って……………	チェロ・中江弘子	168
五歳の戦争体験……………	上村玲子	173
昭和地域の空襲……………	飯塚皎一	175

私の見た東京空襲……………	手塚公夫	176
空襲地獄の夜が明けて……………	小高幸太郎	179
空襲と空腹の日々……………	平間愛子	184
戦争体験記……………	石田喜雄	187
戦争の思い出……………	黒羽清子	190
戦争の体験記録……………	波川美子	192
初空襲を受けた日……………	元澤義治	196

終 戦 前 後

私にとっての戦後……………	春田ミヨ	200
原爆の落ちた日(談)……………	宮川愛子	202
さようなら大連……………	手塚邦子	207
私の終戦は奄美で……………	泰江歌子	210
軍隊? 連隊?……………	伊藤豊造	214
三八度線を越えて……………	吉田勝	216
終戦の日のこと……………	山田三代子	221
アンダマン諸島の終戦……………	平松弘	223
戦火の中から(終戦時十七歳)……………	小高幸太郎	227
「終戦の詔勅」録音盤事件の一部……………	原久雄	232